



平成 29 年 8 月 1 日

## 兵庫県内経済情勢報告 (平成 29 年 7 月判断)

### 1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回 (29 年 4 月判断)	今回 (29 年 7 月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	

(注) 29 年 7 月判断は、前回 4 月判断以降、足下 (7 月末) の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は緩やかに持ち直している。また、企業活動をみると、企業収益は増益見通し、設備投資は前年度を上回る計画となっており、生産活動は持ち直している。さらに、雇用情勢は改善している。

【各項目の判断】

項目	前回 (29 年 4 月判断)	今回 (29 年 7 月判断)	前回比較
個人消費	緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる	緩やかに持ち直している	
生産活動	緩やかに持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	改善している	改善している	
設備投資	28 年度通期は前年度を下回る見込みとなっている	29 年度通期は前年度を上回る計画となっている	
企業収益	28 年度通期は減益見込みとなっている	29 年度通期は増益見通しとなっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果を背景に、回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、企業活動などに影響を与える国内外需要の動向、海外経済の不確実性、為替の影響等に留意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ **個人消費** 「緩やかに持ち直している」

個人消費は、スーパーにおいては生鮮魚介類が低調であり、農産も伸び悩んだほか、百貨店においては衣料品などの動きが鈍かったものの、一方で、スーパーやコンビニにおいて総菜や加工食品が好調であり、百貨店においても化粧品やアクセサリなどが好調であった。また、自動車新車登録届出台数は前年を上回っている。

#### (主なヒアリング結果)

- アニサキス報道もあり生鮮食品が低調であるものの、加工食品や総菜は引き続き好調。今年は猛暑が予想されているので、飲料やアイスなどの需要が高まると期待。(スーパー・大企業)
- 婦人服は厳しい状況が継続している一方で、アクセサリや化粧品が好調。売上・来店客数が前年より増加したほか、インバウンド向けも好調。(百貨店・大企業)
- インバウンド向けが前年比 20%アップと好調。また、調剤部門以外の化粧品や医薬品の売上が伸びている。(ドラッグストア・中小企業)
- 景気が上向き気味であることから、企業からの利用が増えているほか、客室のグレードアップも多く、売上高は前年を上回った。(宿泊・中小企業)

#### ■ **生産活動** 「持ち直している」

生産活動は、輸送機械においては船舶関連の動きが弱いものの、旅客車が海外向けにおいて堅調となっている。また、自動車関連向けの鉄鋼やはん用機械が堅調であるなど、全体では持ち直している。

#### (主なヒアリング結果)

- 鉄道車両分野では海外向けの受注残が豊富。また、油圧機械では中国向けが回復基調であり、さらなる伸びも期待できる。(輸送用機械・大企業)
- 主に国内や米国の自動車向けに鉄鋼・アルミの需要が好調。東京オリンピック向けの需要もみられる。(鉄鋼・大企業)
- 産業用ベルトは、国内向けが底堅く推移しているほか、特にASEAN地域向けの農機用のベルトなど、海外向けの販売が好調に推移。(化学・大企業)

#### ■ **雇用情勢** 「改善している」

有効求人倍率は1倍を超えて上昇を続けており、新規求人数、有効求人数はともに増加傾向にあるなど、雇用情勢は改善している。なお、法人企業景気予測調査(29年4~6月期)をみると、従業員数判断BSIは、「不足気味」超となっている。

#### (主なヒアリング結果)

- 有効求人倍率は、バブル期以降の最高値を12ヶ月間上回り続けている。また、今春に卒業した大学等卒業者の就職率が、平成23年に調査を開始してから過去最高となった。(公的機関)
- 小型店舗を中心に、販売員(主にパート社員)の慢性的な人手不足が継続。昨年に時給を上げて募集したものの、なかなか集まらない。(スーパー・大企業)
- 人手不足気味である。近畿圏内の学生は取り合いになっており、他地域の専門学校にも声をかけている。雇用確保のため、初任給の引上げなど、雇用条件を見直した。(宿泊・中小企業)

#### ■ **設備投資** 「29年度通期は前年度を上回る計画となっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」29年4~6月期

法人企業景気予測調査(29年4~6月期)でみると、29年度通期の設備投資は、非製造業は運輸、郵便などが前年度を下回る計画となっているものの、製造業は食料品などが前年度を上回る計画となっており、全産業では前年度を上回る計画となっている。

■ **企業収益** 「29年度通期は増益見通しとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」29年4~6月期

法人企業景気予測調査(29年4~6月期)で見ると、29年度通期の経常利益は、増益見通しとなっている。規模別では、大企業、中堅企業は増益見通し、中小企業は減益見通しとなっている。

【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数(後方3か月移動平均)で見ると、前年を上回っている。
- **公共事業** 公共事業を前払金保証請負金額(年度累計)で見ると、前年を下回っている。
- **輸出** 神戸港の通関実績(円ベース)で見ると、前年を上回っている。
- **企業金融** 法人企業景気予測調査(29年4~6月期)で見ると、資金繰り判断BSIは、「改善」超となっている。金融機関の融資態度判断BSIは、「緩やか」超となっている。
- **企業倒産** 企業倒産件数を3か月平均で見ると、前年を上回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査(29年4~6月期)で見ると、企業の景況判断BSIは、「下降」超となっている。先行きについては、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

(注)本文中、大企業とは資本金10億円以上の企業を、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満の企業を、中小企業とは資本金1億円未満の企業をいう。